

31H 高堂 葵 33H 羽土 巧大 33H 板倉 唯
35H 吉田 絢菜 36H 山道 悠生

■課題

米農家の高齢化と就業者数の減少による米作りの生産力の低下

■解決策

米農家がロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を推進するスマート農業を導入することで米作りにおける様々な生産工程の負担を軽減し、生産力の向上と安定化を図る。

■現状(課題の背景)

少子高齢化や地方の過疎化によって第一次産業の就業者は高齢者が中心となりその数も減少傾向にある。その一例として能登地域の農家が挙げられる(図1)。それにより、田畑の作付け面積は減少傾向になり生産力は低下している(図2)。

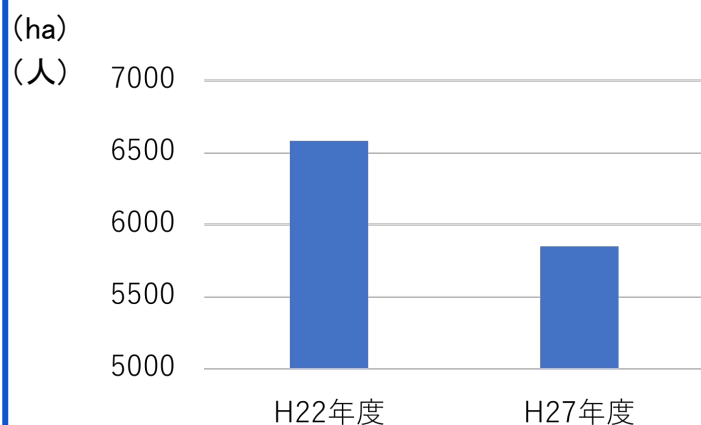


図1 能登地域の農業における15歳以上就業者数

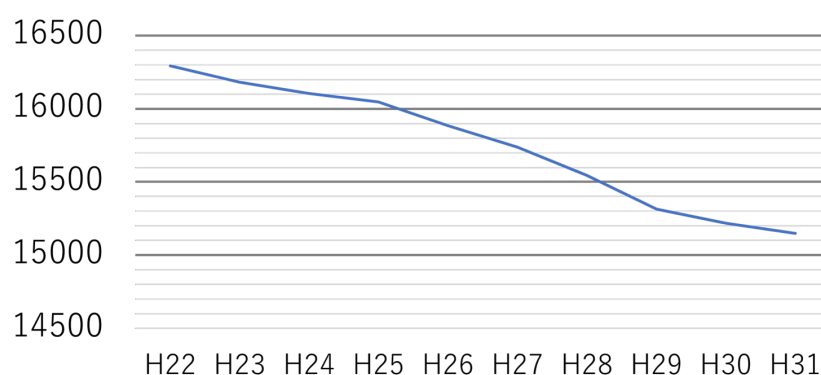


図2 能登地域の耕地面積

■具体的な課題

2022年の「データを活用した農業を行っている農業経営体数」は農業経営体に占める割合が**23.3%**という農研機構のデータからもわかるように、現在の日本のスマート農業の導入率は低い。



農家さんがスマート農業を導入しやすい環境づくりが必要！

■効果

- ・時間短縮できる
 - ・体の健康、維持管理もしやすい
 - ・他の機械で不十分なこともできる
- 〈海外の例〉
- ・アメリカやオランダでは、ドローンなどの最新鋭のICT技術を用いることで農業人口や農地の規模に関わらず農業輸出額の上位を保っている。

■具体的な内容

スマート農業実施への補助制度を充実させる

- ・補助金の公募頻度を高くする。
 - ・農業機械を購入する際の補助金額を引き上げる。
- ↳(ex.ドローンや自動水管理機械など)

レンタル

能登地域で働くすべての米農家が参加する新たな農業組合を設立。レンタルサービスを行う。

- ★効率的に利用するために
- ・事前に農業機械の貸出を望む生産者の数をアンケート調査しそれに応じた数量を組合が購入する。
- ・耕地面積に応じて一ヶ月の総レンタル時間に制限をつける。
- ・返却期限に遅れた際にはお金を追加徴収し一定期間のレンタル利用を禁止する。
- ・日単位だけでなく時間単位での貸出も行う。
- ・農業機械の使用をWebページ上で予約・確認できるようにする。

■参考文献

大D12 (農)夢耕坊(石川県白山市) | 農研機構<https://www.naro.go.jp/smart-nogyo/subject/suidensaku/131261.html>

世界のスマート農業成功事例に学ぶ ~アメリカオランダの例 <https://smartagri-jp.com/smartagri/34>

スマート農業の展開について(2021年9月農林水産省)https://www.soumu.go.jp/main_content/000775128.pdf